

Ⅶ. 事例検討

この事例検討シートについては、「郡上市まちづくり市民会議」の中に「事例検討専門部会」を設置して協議をすすめました。ここには、7つの課題を「市民協働の視点」から検証しており、現在の姿からめざすべき姿についてどのような協働のすすめ方があるのかを研究しました。なお、ここに掲載している例については、あくまで参考としてご覧いただくものであり、ここで示した7つの事例がすべてではありません。ここに示した7つの事例の中においても、様々な協働の進め方があると思われます。これらの事例を参考にしながら、みなさんも自分のまわりで「市民協働の事例」について検討してみてください。すでに、協働によって解決されている事例もあるかもしれません。

※「郡上市まちづくり市民会議」については、P 30を参照。



<事例検討①>～産業部会～

現在の姿	課題	課題の背景	現状	
	・地域資源を活かす産業が弱い。	・雪害にあい折れた木や、間伐で切り捨てた木材が資源として活かされていない。	・林道が整備されていないところでは、搬出費用がかかるため放置されている。(山林所有者) ・昔に比べて薪材の消費が減った。	
めざすべき姿	目標	解決方法・手段	協働により解決するための領域	評価
	・地域資源を活かした産業を育てる。	・炭、木酢液、木質ペレット、薪材など地域での活用。 ・ハウス暖房などの熱源。 ・木酢液を農業に利用。(殺虫剤や除草剤としての活用など)	・行政が主導し市民・企業が一体となって方向づけをする。	・産業に地域資源が活かされているか。
			協働のあり方	
			・製品の積極的な利活用。 ・製品活用のアイデア。 ・新たな産業に関わる人財の育成。(行政)	

<事例検討②>～産業部会～

現在の姿	課題	課題の背景	現状	
	・ゴミ袋が高い。 (・少人数の家庭には大きすぎるゴミ袋) (・生ゴミは水分が多くて燃えにくい)	・生ゴミが可燃ゴミとして捨てられている。 ・ゴミの量の増加。 ・ゴミ処理費用が年々増加している。	・一部の家庭では、生ゴミを「ボカシ」などで肥料化している家庭もあるが、ほとんどの場合は、燃えるゴミとして処理されている。	
めざすべき姿	目標	解決方法・手段	協働により解決するための領域	評価
	・ゴミ袋を安くする。 ＝ゴミの量を減らす。	・各家庭で生ゴミを分別して資源化する。	・市民と行政がそれぞれの主体性のもとに協力しておこなう。	ゴミ袋の使用量の増減。 ↓ ゴミ処理費用の増減。 ↓ ゴミ袋が安くなったかどうか。
			協働のあり方	
			・家庭や団体での肥料づくり。 ・出来た肥料を量に応じて、ポイント化して流通させるシステムを作る。	

<事例検討③>～産業部会～

現在の姿	課題	課題の背景	現状	
	・遊休農地が活かされていない。	・耕作放棄地が増えている。	・一部では転作したり、景観作物を栽培したりしている。	
めざすべき姿	目標	解決方法・手段	協働により解決するための領域	評価
	・遊休農地を有効活用する。	「地産地消」の推進。 ↓ 地元産の安全安心な作物を新鮮なうちに流通、消費できる体制をつくる。	・市民の主体性のもとに行政の協力によって行うこと。	・遊休農地の減少。
			協働のあり方 ・地元産の野菜を学校給食などで積極的に活用。 ・地域の気候風土に合った農作物を見出し年間を通じて出荷できる体制を整える。 ・耕作意欲を持った人の発掘。(遊休農地の貸し出しなど) ・営農に関する専門的な知識技術の指導。	

<事例検討④>～自然部会～

現在の姿	課題	課題の背景	現状	
	・森林資源が燃料として活用されていない。	・木材を燃料として活用するケースが少ない。 ・コストが高い	・薪ストーブの普及が少ない。 ・森林組合では一部ではあるが、広葉樹を暖房用に提供している。	
めざすべき姿	目標	解決方法・手段	協働により解決するための領域	評価
	・森林資源の燃料として活用。 ・地球温暖化の防止に役立つ。 ・地産地消を推進する。	・薪ストーブ・ペレットストーブの活用と普及の促進。 ・薪を安く供給できる体制を創る。	・市民と行政がそれぞれの主体性のもとに協力して行う領域。	・薪ストーブ、ペレットストーブの普及。 ・薪ペレットの供給体制。
			協働のあり方 ・薪ストーブ、ペレットストーブの活用とPR。 ・山林所有者は燃料としての木材の供給に協力する。 ・企業や森林組合は薪やペレットが安く供給できる体制を作る。 ・行政は薪ストーブ購入の資金を助成する。	

<事例検討⑤>～産業部会～

現在の姿	課題	課題の背景	現状	
	観光客の滞在時間が短い。	- 東海北陸自動車道の全線開通に伴い郡上市が単なる通過点となっている。 - 郡上市全体に波及するような観光事業が展開されていない。	- 民間は、旧町村単位での事業やイベントが中心。 - 行政は、旧町村が実施してきた事業の継承や存続が中心。新規事業への取り組みが薄い。 - NPO/その他団体は旧町村単位を超えた横の結びつきによる活動を模索。	
めざすべき姿	目標	解決方法・手段	協働により解決するための領域	評価
	観光客の滞在時間を伸ばす。	- 観光事業の郡上市全体で一体化を図る。 - 郡上市の観光資源を洗い出し、ジャンル別（例えば、景観・産業・文化・歴史・民族・食・寺院等）に分析を行う。 - 景観や歴史的遺産を自然体で見直し、共通する時代別に、観光プロジェクトを構築する。 - 市民ひとり一人が郡上市の観光資源に対しての造詣を深め観光客に対して誇りを持って接する取り組みを推進することが必要である。 「郡上博士」のような資格や級を創設する。 - 市域を超えた連携による広域連携による事業の展開。	市民の協力や参加を得ながら行政主体のもとに行う領域。	観光客の滞在時間の伸び（宿泊者数、飲食店の来客数の伸びなど）
			協働のあり方	
			- 観光資源の分析。 - 分野別観光プロジェクトの構築。 - エージェントとのタイアップ。 - 郡上博士の資格や級の創設。 - 市民ひとり一人が観光に対する意識の高揚を図る。 - 観光事業の郡上市全体の一本化を図るよう意識の啓発を推進する。	



＜事例検討⑥＞～自然部会～

現在の姿	課題	課題の背景	現状	
	手入れ不足により人工林が荒廃している。	- 間伐がすすまず杉、檜等の育ちが悪い。 - 民有林について境界が明確でなく、施業に支障を来している。 - 地崩れ、倒木によるライフラインへの悪影響。 - CO₂の削減が、地球規模の問題となっている。 - 森林生態系への悪影響が発生している。 - 安定した森林経営ができていない。 - 環境に配慮した森林づくりが必要となっている。	- 自力整備 - 森林組合や一般事業体にお任せ。 - 放置。 - 森林ボランティア活動に参加。 - 地球環境の面から森林整備を促進 - 環境保全に対する関心の高まり。 - 森林施策に関する補助金等行政支援。	
めざすべき姿	目標	解決方法・手段	協働により解決するための領域	評価
	手入れされ整備された人工林。(森林の適性管理)	- 森林について共通認識をもつ。 - 森林に対する知識や意識の向上を図る。 - 将来ビジョンの共有を図る。	市民の協力や参加を得ながら行政主体のもとに行う領域。	- 間伐の実施面積 ※適正な方法により間伐が実施されていない場合も想定されるため「評価基準」を設けること。
			協働のあり方	
			- 森林の持つ公益性を理解する。 - 適切な管理をする。 - 境界を明確にする。 - CO₂の削減など、地球環境への関心を高める。 - 企業の社会的責任(CSR)による支援。 - 将来ビジョンを構築。	



<事例検討⑦>～生活部会～

現在 の姿	課題	課題の背景	現状	
	・地域コミュニティの崩壊。	・個人重視の世の中になってしまった。 ・住民同士の関係が希薄になった。 ・女性の会や青年団などの団体が減っている。 ・各種団体の連携がなくなった。 ・高齢化や少子化のため、地域の活動を支える人材が減っている。 ・補助金の削減が事業や活動の縮小につながっている地域もある。	・個人が地域での関わりを避ける傾向がある。 ・地域のまとめ役として自治会が十分に機能しているところとしていないところがある。 ・主にまちづくりやまちおこしを目的として活動している団体がある。 ・行政による自治会への支援（人的・交付金）が行われている。	
めざ べき姿	目標	解決方法・手段	協働により解決するための領域	評価
	・コミュニティの再構築	・地域に対する意識を高める。 ・女性の会や青年団の役割を見直す。 ・地域内の各種団体の連携。 ・新たな担い手の育成。（他地域からの支援も含む） ・自主財源による活動の定着。	・市民と行政がそれぞれの主体性のもとに協力して行う領域。	・新たな自治の仕組みの構築。
			協働のあり方 ・地域内の連携を図るための新たな仕組みづくり。（既存の組織を活かしながら仕組みや制度を再構築する）	

